

船舶事故等調査報告書

平成23年3月31日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第233号	
事故等種類	座洲	
発生日時	平成22年7月25日（日） 09時07分ごろ	
発生場所	千葉県富津市大貫漁港沖 大貫港南防波堤灯台から真方位156° 1.1海里付近 (概位 北緯35° 15.7′ 東経139° 51.4′)	
事故等調査の経過	平成22年11月24日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	ヨット ^{シムーン} Simoon、5トン未満（長さ7.65m）	
船舶番号、船舶所有者等	242-17016 神奈川、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	なし	
事故等の経過	本船は、船長が同乗者4人を乗せ、大貫漁港沖において、船体ほぼ中央のキール部が約1.5mの喫水で投錨に備え、海岸線にほぼ直角の針路で航行中、平成22年7月25日09時07分ごろ、約1ノットの速力でキールが海底に接触した。 本船は、翌日10時ごろ、手配した漁船により引き降ろされた。	
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 4、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期、波高 約0.5m	
その他の事項	船長は、船上から海底の様子を見ながら航行していたが、海底の砂等が巻き上がり、海底が見えなかった。 船長は、同乗者に測深儀の監視を依頼していた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり 不明 なし 本船は、大貫漁港沖で投錨しようとして陸岸に向けて接近する際、適切に水深の確認を行っていなかったものと考えられる。
原因	本インシデントは、本船が、大貫漁港沖で投錨しようとして陸岸に向けて接近する際、適切に水深の確認を行っていなかったため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。	